

第 52 回家庭科教育研究者連盟夏季研究集会

子ども・青年を生活の主人公に — 家庭科教育の可能性 —

会期 2017 年 8 月 5 日(土) 6 日(日)

会場 主会場 長野県教育会館 JR 長野駅善光寺口より循環バス・ぐるりん号「合同庁舎前」徒歩 3 分
副会場 長野県高校教育会館(高校会館)

日程 *受け付けは、両日とも長野県教育会館で行います

| | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
|----------|-------------|-------------------------|--------|--|----|----|--------|---------------------------------|--------|---|----|----|
| 5 (土) | 受付 9:30~ | 実技交流 10:00~11:30 | | 開会行事 12:00~12:55 映画・記念講演 13:00~15:00 | | | 移 動 | テーマ別分科会 15:30~17:30 | 移 動 | 夕食交流会 18:00~19:20 家教連総会 19:50~20:40 | | |
| 6 (日) | 受付 9:00~ | 全体 学習会 9:20~10:50 | 移 動 | 学校種別分科会 (特別支援教育・小学校・中学校・高校) 11:10~16:00 (12:30~13:30 昼食休憩) | | | 移 動 | 閉会行事 16:20~16:40 退館・閉館 17:00 | | | | |

* 開会行事前の実技交流や交流の広場に参加の方は、各自で昼食をご用意ください。

第 1 日目 8 月 5 日(土) 長野県教育会館

〔開会行事〕 12:00~12:55

オープニング「女たちの松代」
集会にあたっての提案

〔映画上映・記念講演〕 13:00~15:00

映画 「わたしの、終わらない旅」
講演 「私たちが生きてきた時代、

映画作りを通して見えてきたもの」 講師 映画監督 坂田雅子さん



私がドキュメンタリー映画を作るきっかけとなったのは 33 年間生活を共にしてきた夫の突然の死でした。彼はアメリカ人で、60 年代の終わりにベトナム戦争に参加していました。彼の死因はベトナム戦争時代にアメリカが散布した枯れ葉剤ではないかとづけられた私は、枯れ葉剤への探求を始め、一作目の「花はどこへいった」ができました。その後、枯れ葉剤の問題から原発、核問題へと続く私の映画製作はずっと見えない糸で繋がれているように思います。糸の始まりは夫の死でした。
いまもカメラを持って旅をし、見てきたことを皆さんと分かち合えることを大変嬉しく思います。

<後援> 長野県教育委員会 長野市教育委員会 松本市教育委員会 信濃毎日新聞社

主催 NPO 法人家庭科教育研究者連盟

〔実技交流〕 8月5日(土)10:00～11:30

小学校から高校まで、すぐ授業に使える実技が体験できます。気楽にご参加ください。

○こぎん刺し ○傘の布で作るエコバッグ ○手づくりおもちゃ(パクパク人形) ○お手玉作り

○チラシを使ってライフスタイルのコラージュ ○カルテット(カード) (材料費をいただくものもあります)

〔テーマ別分科会〕 8月5日(土)15:30～17:30

①③⑤の会場は長野県教育会館 ②④は高校会館

① 食の安全と「自由で公正な経済圏」とは？—日本の主食はいつ変わったか—

菊池敏郎さん(長野県農民連)

日本の食糧は戦前、戦争第一で、農村の働き手が戦場に出かけ食糧難に、敗戦で、食糧事情は窮乏を極めました。戦後の食糧政策は、日本を大きく変えた。「コメを食べると馬鹿になる。パンを食べると頭がよくなる」と宣伝し、アメリカの余剰農産物が大量に入ってきました。その矛先が、学校給食でした。パン食と脱脂粉乳による給食でした。日本人の胃袋の6割以上は輸入農産物となった今、歴史的にみまます。

② 若者の労働実態

村上 晃さん(長野中央法律事務所 弁護士)

ワーキングプア、ニート、派遣社員など非正規雇用が問題とされて久しい。これに加え、近時は、ブラック企業、ブラックバイト、さらには長時間労働による過労自殺の問題など、正規非正規を問わず、雇用そのものが劣化し、若者の自立や人間として尊厳のある働き方が問われています。若者が人間らしく、また、希望をもって生きられる社会や労働のあり方について学ぶ機会としたいと思います。

③ 平塚らいてう生誕 130 年、平和と女性の尊厳を考える

米田佐代子さん(らいてうの家館長)

ノーベル賞作家アレクシェービッチは「戦争は女の顔をしていない」と言いました。平塚らいてうも第一次世界大戦の時代に母となり、同じことを考えます。それから百年、今絶えざる武力紛争のなかで女性は、戦時暴力の被害者であるからこそ「真の平和構築」の主体になるべきだしなれると考えられるようになりました。朝ドラ『とと姉ちゃん』で「平和がいちばん」と語ったらいてうの真意と希望を聴いてみましょう。

④ 健康でエコな生活をするために—洗剤やその他の生活用品について考える—

長谷川 治さん(洗剤・環境科学研究所代表)

生活に欠かせない洗剤ですが、有害化学物質に指定されていることを知っていますか？CMIに惑わされて、たくさんの合成洗剤を使用していませんか？人体にも環境にも安全・安心な石鹼と、有害性の高い合成洗剤のちがいを、化学的に明らかにします。わかりやすく、実験なども入れてお話します。あなたの生活も授業も変わります。石鹼以外の生活用品にも目を向けてみたいと思います。

⑤ 家庭科で何をどう教えるか

知識明子さん(家教連会長)

3. 11福島第一原発事故から6年。この事故から、教訓として学ぶべきことは何でしょうか。未来に伝えるべきことは何でしょうか。いのちと暮らしを学ぶ家庭科の授業だからこそ、原発についての学習は、子どもたちとともに学んでいきたい重要な課題です。

高校生たちと学んだ中川千文さんの授業実践報告「これからの日本の『原発』を考えよう」をもとに、討議していきましょう。

夕食交流会 8月5日(土) 18:00～19:20 ホテル国際21

おいしい料理を食べながら、全国各地のみなさんと交流しましょう。

家教連総会 8月5日(土) 19:50～20:40 高校会館



第2日目 8月6日(日)

[全体学習会] 9:20～10:50 長野県教育会館

「子ども達は家庭科の学びを待っている

—新学習指導要領をどう受けとめるか— 講師 鶴田敦子さん(元聖心女子大教授)

次期学習指導要領は、教育内容だけでなく方法・評価・学校運営まで指示しその性格を根本的に変えています。教師も子どももますます息苦しくなるでしょう。しかし、家庭科教師は男女共修の家庭科の実現という困難をのりこえた歴史をもっています。その心意気を支えたのは、一体なんだったのでしょうか。ここでは、次期学習指導要領を読み解きながら家庭科教育の本質について話します。家庭科の教師であることに自信を深め元気になること必至と思います。

[学校種別分科会] 8月6日(日)11:10～16:00 (12:30～13:30 昼食休憩)

特別支援、小学校、中学校の会場は長野県教育会館 高校は高校会館

| | |
|--------|--|
| 特別支援教育 | 障害者差別解消法が昨年施行されましたが、学校教育の場では、子どもたちの人権や命の尊厳を守り発達を保障するものになっているでしょうか。また、新学習指導要領が特別支援教育にどのような影響をもたらすのでしょうか。特別支援教育を取り巻く状況について各地の実態を出し合い、何が本当に必要か検討していきます。実践では、「子どもの健康と放射線」他、子どもたちが自分をみつめ、自信をつけていく授業実践を予定しています。また、一般学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒への支援や特別支援学級と一般学級との関係にも話題をひろげ、検討したいと思います。 |
| 小学校 | ① 子どもと学校・地域の状況を出し合い、その背景を探ります。 ② 主権者としての生活者を育てることをめざし、子どもが主体となる家庭科の授業に向け、その考え方や進め方、工夫と改善の方法について、実践をもとに検討していきます。 ③ 少ない授業時数に加え、専科も少なくなってきた現状を踏まえ、学級・学年の集団づくりと家庭科教育、他教科、多領域との連携について交流し、家庭科教育の魅力と可能性を確かめ合います。 ④ 新学習指導要領について検討します。 |
| 中学校 | 新学習指導要領でも家庭科の授業時数は87.5時間のままです。子どもたちの生活から学びを出発させ、「学んでよかった」と思える家庭科の授業をするにはどうしたらよいか、ご一緒に考えましょう。現場での知恵や困難も交流し、元気がでる場にしたいと考えています。 <午前>全体会の学習を受けて、中学としての感想や意見、中学生や現場の様子なども交えた参加者の交流をします。午前の最後は、3年間の家庭科の指導計画や実践の報告を受けます。 <午後>新たに2本の実践報告を受け、子ども主体の授業づくりや家庭科の可能性について話し合います。 |
| 高校 | <午前 全体会> 鶴田さんの新学習指導要領の解説を受けて、高校の家庭科がどうなるのか、さらに深めます。また、新学習指導要領の先取りや、教育条件(単位数や教員配置、施設設備等)などについて、各地の状況を交流し合しましょう。 <午後 分散会> 3つの分散会に分かれて、実践レポートの報告を受け、話し合います。各分散会とも原発に関する授業実践1本と他の実践1本の計2本を検討します。昨年からの選挙権が18歳に引き下げられました。「生徒が主体になる授業」「主権者を育てる授業」についても交流しながら、家庭科教育の魅力と可能性をさぐりましょう。 |

[閉会行事] 16:20～16:40 長野県教育会館 感想発表、次期開催地あいさつなど

[交流の広場] 長野県教育会館に常時展示 参加者が展示品を通してお互いに交流する場です。

<展示されるもの> ○生徒の作品や見本など: 授業ノート、実習記録、レポート、新聞、作品、作品の段階見本等

○教材の紹介: 授業で使ったDVDや絵本、写真、参考図書など

○「おみやげ品」コーナー: 家庭科通信、実習プリント、ワークシート、参考資料、テスト等々

* 作品や教材などを展示して頂ける方はご連絡ください。

* 家庭科関係の書籍販売コーナーもあります。 <連絡先> TEL/FAX 044・272・8263(中澤美智代)